

ボン大学における多読の実践報告

ボン大学では NPO 多言語多読監修作成の日本語多読ブックスシリーズなどを柱に多読の授業をカリキュラムに取り入れてきた。本発表では 2010 年ごろから継続している多読を取り入れた授業の取り組みを紹介しながら、カリキュラムに取り入れるメリットや問題点、また今後の可能性などについて報告したい。まずはボン大学における多読の実践環境を、ボン大学における多読のカリキュラム上の位置づけ、支援体制を例に説明する。次に、2 学年に渡って学生に行った多読に関するアンケート調査の結果を分析する。それから、期末試験などに見られる多読の効果、もしくは試験結果には見られない成果を述べ、またこの活動によって学習者の主体的な学びを促すことができるのかなどを考察する。最終的にはドイツ語圏の日本語教育で多読を推進していくためのプロジェクトを提案できればと考えている。